

＜ユーラシア世界を知るための市民教養講座＞ 【シリーズ2】 ロシア東欧の文化と芸術（全5回）

この【シリーズ2】は、ロシア東欧の文化と芸術に関する総合的な入門講座です。日本でも人気の高いロシアの文学・音楽・美術・バレエ・映画などを中心に、ロシアの歴史的背景や食文化も紹介し、さらにウクライナ・ポーランド・旧ユーゴスラヴィアなどのロシア以外のスラヴ諸国の文化・芸術のありかたも視野に入れ、毎回2名の講師が登場するという大変欲張った企画です(最終回はシンポジウム形式で講師は3名)。ロシア東欧の文化や芸術に関心をお持ちの方にとってはまたとない機会となることと思います。

講師プロフィール（登壇順）



望月 哲男（もちづき てつお）：北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター特任教授、日本ロシア文学会会長。ロシア文学。編著書『創像都市ペテルブルグ——歴史・科学・文化』（北海道大学出版会）、訳書トルストイ『アンナ・カレーニナ』（光文社）、ドストエフスキー『白痴』（河出書房新社）など多数。2010年、ロシア文学翻訳賞をロシア科学アカデミーより授与される。

亀山 郁夫（かめやま いくお）：東京外国語大学学長を経て、現在、名古屋外国語大学学長。ロシア文学・芸術・音楽。著書『甦るフレブニコフ』（平凡社）、『磔ロシア』（岩波書店、大佛次郎賞）、『謎解き「悪霊」』（新潮社、読売文学賞）など。訳書ドストエフスキー『カラマーゾフの兄弟』『罪と罰』『悪霊』（光文社）など多数。2008年、ロシア政府よりプーシキンメダルを授与される。



鴻野 わか菜（こうの わかな）：千葉大学文学部准教授。ロシア文学・芸術。特にカバコフなどの現代美術に詳しく、日本での展覧会組織にも貢献してきた。訳書にイリヤ&エミリア・カバコフ『プロジェクト宮殿』（共訳）、レオニート・チシコフ『かぜをひいたおつきさま』他。

坂庭 淳史（さかにわ あつし）：早稲田大学文学学術院准教授。専門は19世紀ロシア詩・思想。主な著書に『プーシキンを読むー研究のファースト・ステップ』（ナウカ出版）、『フォードル・チュッチェフ研究ー19世紀のロシアの「自己意識」』（マニュアルハウス）、訳書にアルセーニ・タルコフスキー『雪が降るまえに』（鳥影社）。



村山 久美子（むらやま くみこ）：舞踊史家、舞踊評論家。読売新聞舞踊舞台評を現在に至るまで25年間担当。早稲田大学、昭和音楽大学、桐朋学園芸術短期大学他で、非常勤講師として舞踊論、ロシア・バレエ史、ロシア語、ストリートダンス実技を担当。著書に『二十世紀の10大バレエダンサー』（東京堂出版）他。

佐藤 千登勢（さとう ちとせ）：法政大学国際文化学部准教授。専門は20世紀ロシア文学、ロシア映画。著書『シクロフスキ 規範の破壊者』（南雲堂）、『映画に学ぶロシア語』『チェブラーシカ』（東洋書店）、共著書『ロシア文学への扉』（慶應義塾大学出版会）など。



池田 嘉郎（いけだ よしろう）：東京大学大学院人文社会系研究科准教授。専門は近現代ロシア史。主な仕事は、著書『革命ロシアの共和国とネーション』（山川出版社）、訳書シュテルマー『フーチンと甦るロシア』（白水社）、編著『第一次世界大戦と帝国の遺産』（山川出版社）。

沼野 恭子（ぬまの きょうこ）：東京外国語大学総合国際学研究院教授。ロシア文学、比較文学、食文化。主な著書に、『アヴァンギャルドな女たち——ロシアの女性文化』（五柳書院）、『夢のありか——「未来の後」のロシア文学』（作品社）、『ロシア文学の食卓』（日本放送出版協会）。ウリツカヤ、クルコフ、ペトルシェフスカヤなどの現代ロシア文学の翻訳多数。



ヴィヤチェスラフ・スロヴェイ：翻訳研究者・翻訳家。ロシア語・ウクライナ語・英語・日本語の概念メタファーに現れる世界観の比較その翻訳の問題を研究。シェフチェンコ記念キエフ国立大学卒、東京大学大学院人文社会系研究科現代文芸論研究室博士課程満期退学。

松尾 梨沙（まつおりさ）：東京大学総合文化研究科博士課程在籍。専門は音楽学、比較芸術、特にショパン研究。論文に『ショパンの文体と音楽構造——新たな分析方法をもとめて』（超域文化科学紀要 17）など。



亀田 真澄（かめだ ますみ）：東京大学文学部助教。専門は、ロシア東欧における共産主義政権下の文化研究。著書『国家建設のイコノグラフィ——ソ連とユーゴの五カ年計画プロパガンダ』（成文社）、共著書『アイラブユーゴ ユーゴスラヴィア・ノスタルジー』（社会評論社）。

【シリーズ1】 今後のユーラシア動向

日時：5/20、5/27、6/3、6/10（いずれも水曜開催）
18時30分～20時30分（開場18時）

会場：千葉商工会議所12階 研修室A

司会者プロフィール

沼野 充義（ぬまの みつよし）：東京大学文学部教授、元日本ロシア文学会会長（2009～13年）、現在日本ロシア・東欧研究連絡協議会代表幹事。ロシア・ポーランド文学、文芸評論。著書に『亡命文学論』（作品社、サントリー学芸賞）、『ユートピア文学論』（作品社、読売文学賞）など。

野中 進（のなか すずむ）：埼玉大学教養学部教授。ロシア文学・思想・批評理論。共編著に、『ロシア文化の方舟——ソ連崩壊から20年』（東洋書店）、『いま、ソ連文学を読み直すとは』（埼玉大学教養学部）、『ロシア・フォルマリズム再考——言語・メディア・知覚』（せりか書房）など。

主催 日本ロシア・東欧研究連絡協議会（JCREEES）
第9回国際中欧・東欧研究協議会（ICCEES）幕張世界大会組織委員会
協力 千葉商工会議所

問合せ先
東京大学文学部現代文芸論研究室内
ICCEES 幕張世界大会組織委員会事務局
〒113-0033 東京都文京区本郷7-3-1
電話・ファックス：03-5841-7955
E-mail：makuhari@l.u-tokyo.ac.jp
HP：http://www.l.u-tokyo.ac.jp/makuhari2015/